

# 延長ロッド

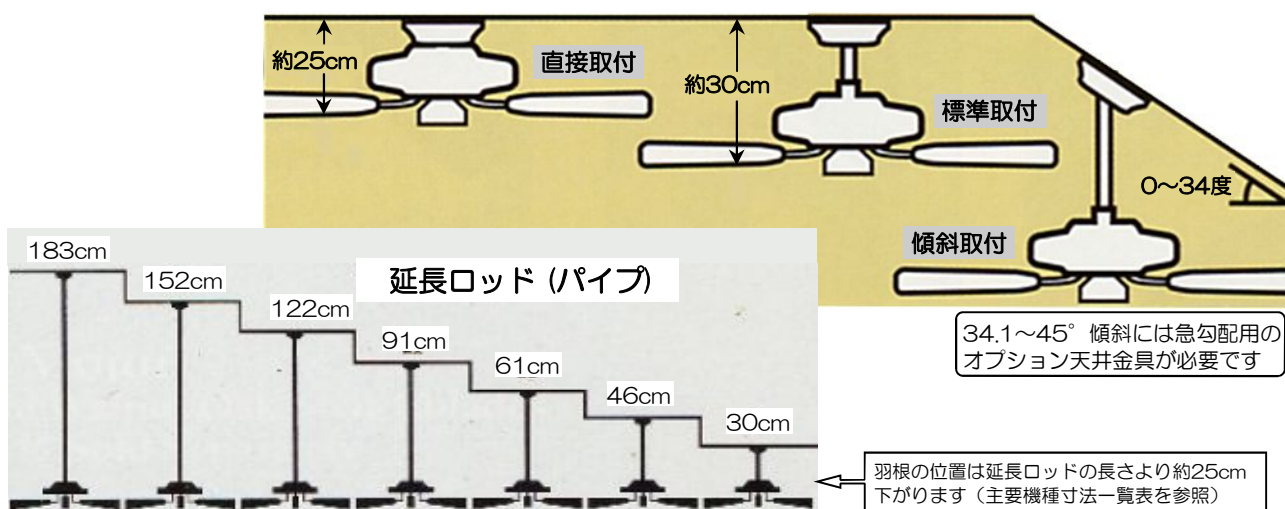
(ハンター・カサブランカ)

傾斜天上への取付時や、吹き抜けなどの高い天井への取付時に空気循環の効率を最大限高める為に、オプションの延長ロッドを使ってシーリングファンの位置を調整する事ができます。

傾斜天上の場合、羽根の先端と低い側の天井との間隔を最低「30cm」空けて地震などで大きく揺れた場合に接触を防ぐだけでなく空気循環のスペースを確保する事がお勧めです。

高所取付時における取付高及び空気循環効率に関しては『ファンの取付位置と回転(送風)方向』の資料を参照して下さい。

延長ロッドは一部のカラーを除き【30cm～183cm】の7段階の長さがありますが、既成寸法の中間の長さを希望の場合には、パイプカッターで片方の端を切断してピンを通す横穴をドリルで開ければ好みの長さに調節する事が可能です。(ロッドの材質は軟鉄です)



長さ (cm)	30	46	61	91	122	152	183
価格 (¥)	3,600	4,200	4,800	6,200	7,400	12,000	14,000
アイロン	22685	22686	22687	26014	26015	26016	26017
アンティーク・コパー	26027	26028	26029	26030	26031	26032	26033
アンティーク・ピューター	28054	28055	28056	28057	28058	28059	28060
アンティーク・ブラス	22719	22729	26319	26329	26339	23190	23060
ウエザード・ブリック	22681	22682	22683	26010	26011	26012	26013
ウエザード・ブロンズ	28266	28267	28268	28269	28170	-	28271
ココア	28962	28994	28963	28964	28988	28989	28990
サテン・ホワイト	28929	28930	28931	28932	28933	28934	28935
チェスナット・ブラウン	22711	22721	26331	26341	26351	-	-
ニュー・ブロンズ (*)	26041	26042	26043	26044	26045	26046	26047
プライト・ブラス	22713	22723	26313	26323	26333	23192	23062
ブラック (+)	26302	26219	26227	26228	26229	23194	23064
ブラッシュ・ニッケル	26019	26020	26021	26022	26023	26024	26025
プロベンカル・ゴールド	28224	28225	28226	28227	28228	28290	28229
ブロンズ・パティナー	28206	28207	28208	28209	28210	-	-
ホワイト	22717	22727	26317	26327	26337	23197	23067

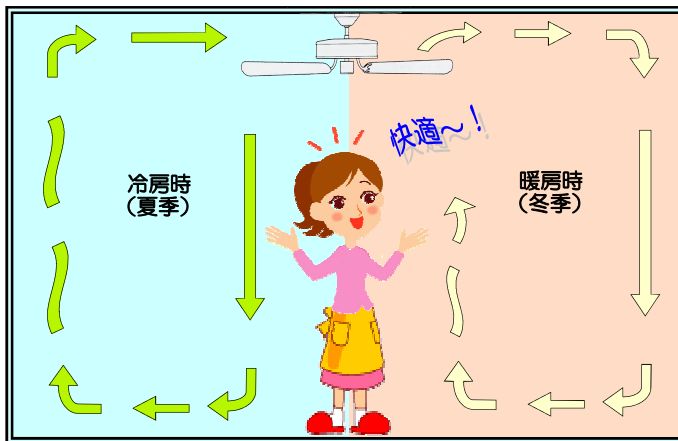
(\*) : ブロンズ・ニューブロンズ機種に使用

(+) : ブラック・アンティークブラック・グラフィイト機種に使用

表以外のカラーに関してはお問合せ下さい

# ファンの取付位置と回転(送風)方向

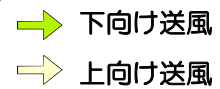
## 通常の天井高 (約3.5m以下)



通常天井高の部屋(3.5m以下)では標準取付又は直接取付がお勧めです。

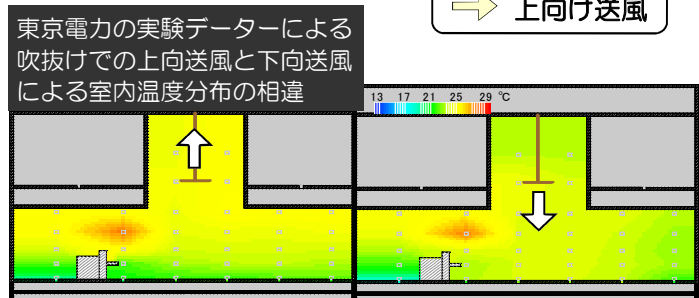
寒い時(暖房時)には【上向き送風】にして天井の暖かい空気を壁伝いに床まで下ろしながら、暖房を部屋全体均一に循環し温度ムラを防ぎます。

暑い時(冷房時)には【下向き送風】にして空気の流いで体感温度を下げると同時に、冷房の冷気を部屋全体均一に循環し冷え過ぎと温度差を防ぎます。



## 吹抜けの天井高 (約3.5m以上)

吹抜天井などの天井高が高い(3.5m以上)の空間に取付ける場合には、延長ロッドを使い最大限の空気循環効果が得られる高さに取付ける事が重要です。

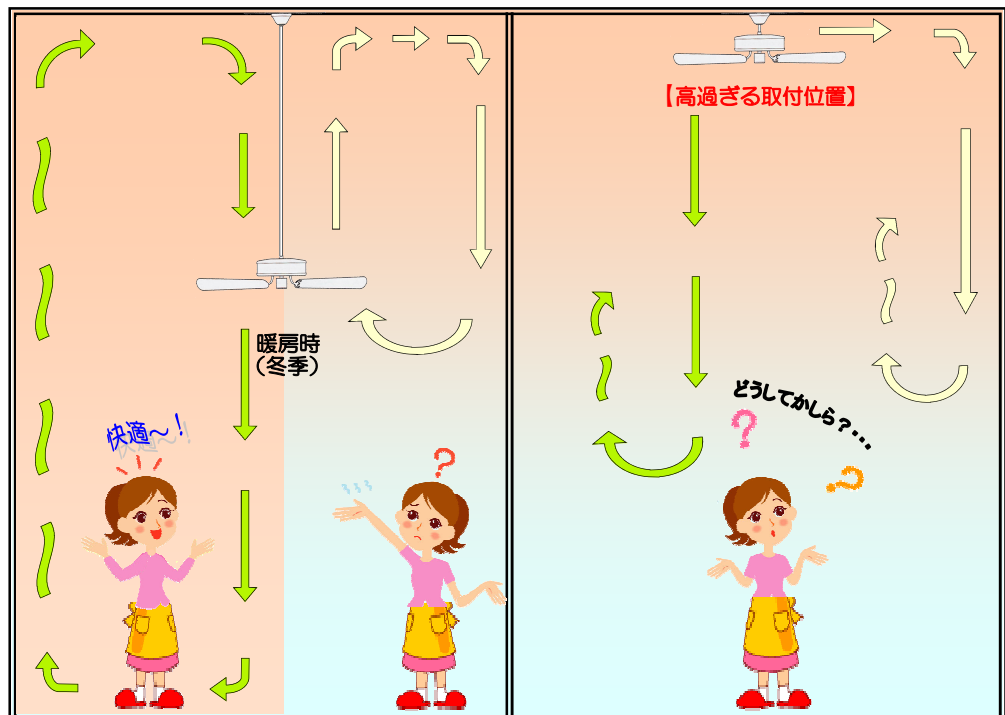


高過ぎる位置に取付けると

【空気の低い伝導率】の為に、どちら方向に送風しても空気が床まで押下げられずに、空気自体の温度差による浮力で途中で上昇してしまいます。(下右図)

延長ロッドを使ってファンの位置が床から『約4.5m以下』になる様取付けると効果的です(\*)。暑い時(冷房時)には【下向き送風】にして空気の流いで体感温度を下げると同時に、冷房併用の場合にはエアコンからの冷気を部屋全体均一に循環し冷え過ぎと温度差を防ぎます。

寒い時や暖房時に上向きに送風すると送風空間(距離)が大き過ぎる為に、天井の暖気を床に届くまで押下げる事が出来ず途中で上昇してしまい床まで届きません。その為【下向け送風】をして暖気を床まで押し下げて空気循環を起こします。つまり【一年中下向け送風】にします。



(\*) 効果的な取付高さは部屋の広さや形状により多少異なります